

(一財)日本GAP協会認定

JGAP 新旧差分研修のご案内

(JGAP2022 対応)【農産(茶)】

JGAP2016 と JGAP2022 の違いを学ぶ、日本 GAP 協会公認研修です。

この研修は青果物・穀物・茶に関係なく受けることは可能ですが、今回、茶を中心とした研修として企画いたしました。また、講師にはこれまで茶の GAP 研修・指導に実績のある宮原義博氏を迎えて実施いたします。

≪本研修会の目的≫ ・「JGAP 総合規則 2022」と「JGAP 総合規則 2017」の違いを理解する。 ・「JGAP2022」と「JGAP2016」の管理点と適合基準の違いを理解する。 ・ JGAP/ASIAGAP 指導員資格を更新する。	
日時	2024年1月16日(火)10:00~17:30(接続開始 9:30~)
開催方法	WEB 開催 接続環境:Zoom アプリケーション ※受講には、インターネット環境およびインターネット環境に接続できる機器が必要です。また、カメラ、マイクも各自でご準備をお願いいたします。これらの機器の貸与はございません。
参加条件	基本的なIT機器操作が行えること 日本語で読み書きができる方(通訳および翻訳アプリを利用しての受講は不可) 【全国農業改良普及支援協会からのお知らせ(Web 受講に関する注意事項)】 に同意いただける方
講師	宮原 義博 氏
定員	36名
受講料	受講料:税込 33,000 円 (テキスト代、登録料13,750円を含む)
申し込み	以下、全国農業改良普及支援協会 HP の申し込みフォームよりお申し込みください。 https://www.jadea.org/form/jgap_sabun_entry_sheet_20240116.htm
キャンセル	キャンセルされる場合には、必ず下記問合せ先まで電話・メールにてご連絡ください。入金の有無にかかわらず、自動的にキャンセルにはなりません。 キャンセル料は研修開始日の前日より起算して ・4営業日前までのキャンセル :無料 ・研修前日~3営業日前でのキャンセル :11,000円 ・研修当日、研修開始後の解除、無連絡不参加 :参加費の100%
開催中止	お申し込みが所定の人数に満たない場合、開催を中止させていただきます。 中止の場合は、研修の5営業日前までにご連絡いたします。
その他	・【全国農業改良普及支援協会からのお知らせ(Web 受講に関する注意事項)】を必ずお読みいただき、同意の上お申し込みください。 ・出席時間が全体の90%を下回る場合、試験の結果にかかわらず不合格となります(研修中は、事務局による出席状況確認を随時行います)。インターネット回線の速度や容量

	<p>不足、機器トラブルが起きないようにご準備ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストは、研修日一週間前～前日までに、申請頂いたご住所へ送付いたします。 ・録音や録画はご遠慮ください。 ・試験は講義中には実施いたしません。答案用紙は後日、郵送にてお送りください。詳細は当日、ご説明をいたします。 ・不合格の場合、1年以内に1回だけ再受講ができます。また、試験が不合格の場合、1ヶ月以内に1回だけ再試験が受けられます。
問合せ先	<p>〒110-0005 東京都台東区上野 3-1-2 秋葉原新高第一生命ビル8F 一般社団法人 全国農業改良普及支援協会 研修部 TEL:03-5817-4993 FAX:03-5817-8154 E-mail: gap-kenyu@jadea.jp</p>

補足:「JGAP2022」への対応について

2022.11.14 に「JGAP2022」が発行されました。

これまでの「JGAP2016」から久しぶりの全面改定で、主要な内容として以下のような見直しがされています。

- ・SDGs の流れを受けて、人権への配慮と環境保全が強化された。
- ・CODEX-HACCP の要素を取り込み、リスク評価が強化された。
- ・災害等の経営リスクに備えた事業継続計画が追加された。
- ・農薬使用計画における IPM が強化され、RAC コードの利用が追加された。
- ・農薬使用の検証が強化された。等

「JGAP2016」から「JGAP2022」へ切り替えについては以下のルールが適用されます。

1. 次回の審査が維持審査の農場・団体

前回の更新審査(又は初回審査)を 2016 年版で受けた場合、次の維持審査は「JGAP2016」のまま受審可能です。但し「JGAP2022」に切り替えて受審することも可能です。

2. 次回の審査が更新審査の農場・団体

①現在の認証の有効期限が 2024.08.13 までの農場・団体

「JGAP2016」での更新審査の受付は 2024.02.13 まで可能であり、更新審査の受付は有効期限の 6 か月前から可能であるため、更新審査の受付を 2024.02.13 までに済ませば「JGAP2016」で更新審査を受けることが可能です。但し「JGAP2022」に切り替えて受審することも可能です。

②現在の認証の有効期限が 2024.08.14 以降の農場・団体

次回の更新審査は「JGAP2022」で受けなければなりません。

上記の移行ルールを十分に認識した上で、ご自分の農場・団体がどのタイミングで移行審査を受けるのか、その為に研修を含めどのように学習し準備すればよいかを検討する必要があります。特に団体においては、マニュアルの改定、内部監査の実施等の段取りを考慮し、早めに準備する必要があります。